

札幌新まちづくり計画市民会議

第1回全体会議

会 議 録

平成15年11月6日(木)午前10時00分開会
すみれホテル 3階 ヴィオレ

1. 開 会

事務局（企画部長） 定刻でございますので、ただいまから札幌新まちづくり計画市民会議第1回全体会議を始めさせていただきます。

本日は、皆様、大変お忙しい中をご出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、この会議の事務局を担当いたします企画部長の小島でございます。よろしくお願いいたします。

まず、委嘱状についてですが、あらかじめお手元にお配りさせていただいておりますので、よろしくお願いいたしますと存じます。

2. 市長あいさつ

事務局（企画部長） それでは、会議に先立ちまして、上田市長からごあいさつを申し上げます。

上田市長 皆様、おはようございます。

市長の上田文雄でございます。

札幌新まちづくり計画市民会議を設立、開催するに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

本日ご出席の皆様方におかれましては、本当にお忙しい中、私たちの札幌新まちづくり計画市民会議の委員を快くお引き受けいただき、あるいは、応募をしていただきまして、たくさんの方の中から選ばせていただきましたが、本当に積極的にこれからの札幌のまちづくりについて提言しようという意欲を見せていただきまして、ありがとうございました。そして、こういう形でご参加いただき、これからご議論をいただくわけではありますが、本当に心から感謝を申し上げたいと思っております。

まちづくりということになりますと、現状の認識が非常に大切だと思いますが、札幌というまちは自然環境に非常に恵まれたポジションにあります。そしてまた、札幌市街のまちづくりの中で、先人の方がいろいろなご苦労を重ねながらこのまちをつくってきたという努力の成果から、都市としてのインフラは大分整ってきております。

そういう中で、札幌市民のアンケートによりますと、97%からほぼ100%近い方々が、これからも札幌に住んでいきたいという感想を持っておられまして、そういう意味では、恵まれた、市民にある程度の満足感のあるまちになっているのかなという感想を持っているわけです。

しかしながら、時代の流れの中で、札幌市の経済活動は非常に厳しい状況になっております。税収も落ち込んでおりますので、これからのまちづくりをどうしていくかという議論を、そういうこととかけ離れてやっていくわけにもいかないという状況にあるかと思っております。

私はまちづくりについての基本的な施政方針をこの7月の定例議会で申し上げました。自分たちが生きるまちというのは、本当に市民一人一人の力がみなぎる中で、市民自治を

しっかり担うことができるまちづくりをしていきたい、さらに、文化や芸術があふれる、誇りを持てるまちづくりをしていきたい、こんな目標を掲げさせていただきました。

これは、一人二人が提言するだけではとてもやっていけません。多くの方々の意見、いろいろな活動をされている方々の意見を集約してまちづくりを盛んにしていくことが必要だと思っています。

これからのまちづくりについていろいろな議論をしていただけるというふうにご期待申し上げます。24名の委員のうち、10名は公募の方です。応募いただいた皆様方には、本当に自由な立場で議論を重ねていただきたいと期待しているところでございます。

芸術文化を中心に、今の物の豊かさから、これからは心の豊かさへ、そして、北海道人、札幌人としての誇りを持てる、そして、このまちで自分たちの自治をしっかり実現していくということに重きを置いた市政を私は望んでおりますが、皆様方の活発なご議論の中でこれからのまちづくりを考えていただきたいと思っております。

こういう形で、札幌市でまちづくりについての意見交換の場を設けるのは初めてだそうでございます。そういう市民の意見を反映できるシステムを市民会議の中で実現していただきたい、そして、市民自治の一環として、まちづくり計画の皆様方のご議論をご期待申し上げたいと思っております。

委員の皆様方は、本当に各界、各層でご活躍いただいておりますので、大変お忙しい中をご参加していただきますことに心から感謝申し上げます。この会議が市民自治のモデルケースになるような会議にさせていただいて、また、実り多い議論をご期待申し上げまして、最初のお言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

3. 委員，事務局の紹介

事務局（企画部長） 本日は第1回目の会議でございますので、委員の皆様方をご紹介申し上げたいと存じます。

お名前を五十音順にご紹介させていただきます。

恐れ入りますが、その場でお立ちくださいますようお願いいたします。

なお、お手元の資料2に委員の方々の名簿がございますので、あわせてご覧いただきたいと存じます。

まず、阿部一司委員でございます。

荒紀男委員でございます。

飯塚優子委員でございます。

伊藤淑子委員でございます。

岩田美香委員でございます。

内田和男委員でございます。

大坂紫委員でございます。

太田幸雄委員でございます。

大沼義彦委員でございます。

木路毛五郎委員でございます。

工藤仁美委員でございます。

黒田澄雄委員でございます。

柴川明子委員でございます。

杉岡委員におかれましては、遅れてご出席いただけるというご連絡をいただいております。

杉森洋子委員でございます。

高田悦子委員でございます。

田村丈生委員でございます。

燕信子委員でございます。

中井和子委員でございます。

中島洋委員でございます。

林雅之委員でございます。

平本健太委員でございます。

なお、臼井委員、小林委員におかれましては、本日、所用のため欠席というご連絡をいただいております。

大変恐縮ですけれども、上田市長におきましては、所用がございますので、ここで退席させていただきますと存じます。

〔 市長退席 〕

事務局（企画部長） 続きまして、事務局職員をご紹介します。

企画調整局長の下平尾でございます。

調整課長の阿部でございます。

事務局を担当いたします企画部調整課の職員でございます。

私どもとともに事務局を務めます北海道総合研究調査会の山重常務理事のほか、研究員の方々でございます。

4. 議 事

事務局（企画部長） それでは、これより議事に入らせていただきたいと存じます。

最初に、会議の公開、非公開についてでございます。

札幌市情報公開条例に基づきまして、原則として公開ということにさせていただきたいと存じます。よろしくお願いたします。

次に、座長及び副座長の選出でございます。

皆様のお手元に資料1の本市民会議の設置要綱を配付してございますが、その第3条第1項の規定により、座長1名、副座長2名を選出させていただきます。

まず、座長の選出でございますが、本来であれば仮議長を選出して進行するのが順序かと思いますが、時間の関係上、私そのまま司会を務めさせていただきながら選出させていただくということによろしゅうございますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

事務局（企画部長） ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、座長の選出でございますが、どなたかご推薦はございますでしょうか。

伊藤委員 北海道大学大学院研究科長と学部長を兼任されております内田和男委員をご推薦いたしたいと思います。

以前、ご一緒させていただく機会を持ちましたときに、リーダーシップ性を深く印象づけられましたのが推薦の理由でございます。

事務局（企画部長） ただいま、伊藤委員から、内田委員を座長にとのご推薦がございましたが、いかがでございましょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

事務局（企画部長） ありがとうございます。

それでは、内田委員に座長をお願いいたしたいと思います。

内田委員におきましては、座長席に移動していただきまして、一言ごあいさつを頂戴したいと存じます。

〔 内田座長、所定の席へ移動 〕

内田座長 ご指名を受けました内田です。

まちづくりというのは、私は門外漢ですので、その大役が務まるかどうか大変不安ではありますが、先ほど市長のお話にもありましたように、このメンバーの中には公募委員が10名入っております。札幌市をこよなく愛する人で構成されていると聞いておりますので、私としてはうまく進んでいくのではないかと期待しております。

今回は、参加型ということの一つのポイントとしてアピールされておりますが、私としては、手づくり感というか、手ざわり感があるような報告書、提言をつくりたいと思っておりますので、ご協力方をよろしくお願いしたいと思います。

事務局（企画部長） どうもありがとうございました。

次に、副座長の選出についてでございますが、ここからは、議事進行を内田座長をお願いいたしたいと存じます。

座長、よろしくお願いいたします。

内田座長 それでは、私の方から副座長を指名させていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

内田座長 お一人は、遅れてきて、本当は好ましくないのですが、杉岡委員をお願いしたいと思っております。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

内田座長 それでは、非常にメンバーが多いので、もう一人指名させていただきたいと思います。

もう一方は、今回は公募委員の方が半数近くおられますので、公募委員の中から選ばせていただきたいと思いますと思っております。そこで、女性の方を選ばせていただきたいと思いますと思っております。

名簿リストを見せていただきますと、高田委員は母子寡婦福祉連合会の会長などを長くやっておられまして、非常にご見識が高いというふうにお聞きしておりますので、本市民会議におきましてもご尽力をお願いしたいと思っております。

高田委員にお願いしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

内田座長 高田委員、よろしいでしょうか。

高田委員 恐縮いたしております。もっとお若いの方がよろしいのではないのでしょうか。

内田座長 座長も年寄りなので構いません。よろしくをお願いしたいと思います。

それでは、両副座長に一言ずつごあいさつをお願いしたいと思います。

杉岡副座長 遅れて来た杉岡です。

9時から学長主催の会議が招集されていまして、こちらの方が先に決まっていたのですが、私は6名しかいない委員の一人だったものですから、40分間だけそちらに参加して、こちらの方に参りました。

まちづくりについては、これまで、地域福祉に取り組んでいる立場から、市長も強調されている連絡所単位のまちづくりの生活圏の中で、問題に取り組む仕組みをどのようにつくっていくかということを中心に考えていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

内田座長 それでは、高田副座長からもお願いします。

高田副座長 高田でございます。

こんなことになろうとは思っていませんでした。私は、レポートを出しただけでも、自分の中の達成感があったのですが、本当に恐れ入ります。

年齢を申し上げるのは恥ずかしいですけれども、75歳になります。私は、女性の味方というか、子供を産む女性の問題、それから、生活者、消費者、高齢者の問題については経験豊かでございますが、知恵の方はどうかわかりません。安心できるといいますか、そんな感じで臨んでいきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、議事を進めさせていただきたいと思います。

議事（２）番目，今回の市民会議の説明を，事務局の方からお願いしたいと思います。

事務局（企画部長） それでは，事務局から「札幌新まちづくり計画」の策定に関する方針や市民会議の位置づけなどにつきまして，ご説明させていただきます。

まず，お手元に配布いたしました資料３「札幌新まちづくり計画の策定について（概要）」をご覧ください。

左上に「札幌新まちづくり計画とは」と記載したハコがございます。その中の右側に３つのだ円で示した図がございます。これは，市長の施政方針であります「さっぽろ元気ビジョン」の実現に向けて策定する「市民自治推進」，「市役所改革」，「まちづくり」の３つのプランを示しておりまして，これらを総称して「さっぽろ元気プラン」と呼んでおります。

今回策定いたします「札幌新まちづくり計画」は，このうちの「まちづくりのプラン」に当たるもので，今後のまちづくりの考え方や重点的に進めるべき施策・事業などを定める中期の実施計画になるものでございます。

なお，施政方針「さっぽろ元気ビジョン」につきましては，資料５として，お手元に配布しておりますので，後ほどご覧いただきたいと思います。

次に，その下の「計画策定の背景と計画策定方針」というところでございます。

まず，「計画を策定する上での背景」でございしますが，本市では，これまで，概ね２０年間を計画期間とする「長期総合計画」と，その実施計画であります「５年計画」によりまして，効果的・効率的なまちづくりを進めてきたところでありまして，現在の「５年計画」は平成１２年から１６年までを計画期間とするものでございます。

しかしながら，この間，長引く景気低迷を背景といたしました本市の財政状況の悪化や，少子高齢化の急速な進展など行政課題の多様化，それから，本格的な地方分権の到来や市民自治の推進など，本市の都市経営環境はめまぐるしく変化しております。

こうした状況のもとで，本市が現在置かれております状況をしっかりと把握したうえで，新たな時代に対応したまちづくりの計画を早期に策定することが必要でありますことから，このたび，「札幌新まちづくり計画」を策定することとしたものでございます。

次に，その右にあります「策定方針のポイント」でございします。

まず，計画期間であります，施政方針の「さっぽろ元気ビジョン」を確実に実現するとともに，社会経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応する趣旨から，計画期間を現在の５年間から，平成１６年度から１８年度までの３年間としております。

次に，「市民会議の設置」でございします。

施政方針に掲げる「市民自治が息づくまちづくり」の考えのもとに，従来の５年計画の策定時にはなかった新しい市民参画の取組といたしまして，この市民会議を設置するものでございます。

次に，「計画の構成」でございします。

計画は「ビジョン編」と「重点事業編」の２編構成で策定したいと考えております。

詳細につきましては、恐縮でございますが、資料4「札幌新まちづくり計画の策定について（策定方針）」の5頁をご覧くださいと思います。「別紙1 計画の構成」というところがございます。

「ビジョン編」は、まちづくりの理念や指針を示すビジョン的な性格を持つものでございまして、具体的には、「内容」のところになります。「新まちづくり計画の5つの基本目標」「基本目標ごとに、市民・企業・行政が共通の目標とする「望ましいまちの姿」「それを達成していくための「重点戦略課題」や「施策の基本方針」「重点戦略課題ごとの成果指標や、市民・企業・行政などに期待される役割」などを内容といたします。この市民会議からご提言をいただきまして、来年3月を目途に策定いたしたいと考えております。

一方、「重点事業編」でございますが、「ビジョン編」において行政が役割を担う部分についてのアクションプランといった性格を有するものであります。「ビジョン編」で定める重点戦略課題や施策の基本方針に基づきまして、本市が計画期間の3年間に重点的に実施をする事業を計画化するものでございます。

ビジョン編の策定後、庁内で作成作業を進めまして、市民会議への報告、素案公表などの手続きを経まして、来年8月を目途に策定いたしたいと考えてございます。

また資料3に戻ります。先ほどの「策定方針のポイント」の4つ目のマルになりますが、「計画対象の重点化」でございます。

中長期的に厳しさを増す財政状況を踏まえまして、まちづくりにおける政策目標を明確に示しながら、計画で取り上げる事業を重点化し、経営資源の効果的かつ弾力的な活用を図っていくため、「5つの基本目標」と、その基本目標を達成するための施策でございます「17の重点戦略課題」を設定しております。

先ほどの資料4の6頁、最後の頁でございますが、「別紙2 基本目標と重点戦略課題」という資料でございます。

基本目標は、上から順に申し上げますと、「元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ」「健やかに暮らせる共生の街さっぽろ」「世界に誇れる環境の街さっぽろ」「芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ」「ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ」の5つでございます。そして、これらの基本目標に対し、それぞれ重点戦略課題、これは合計で17個ありますが、17の重点戦略課題を設定してございます。

また資料3に戻ります。

次に、最後の5つ目のマルでございますが、「成果を重視した計画づくり」ということでございます。

まちづくりを担う市民・企業・行政などの共通目標を、具体的、かつ、わかり易く示す取組の一つとして、成果指標というものを試行的に導入するものでございます。

なお、成果指標につきましては、今のところ確立した手法があるわけではなく、国や他の自治体においても様々な試行的な取組がなされている段階でございます。したがって、

今回は試行としての位置づけとさせていただきます。

次に、その下の「計画策定スケジュール」でございます。

今後のスケジュールといたしましては、本日、市民会議が立ち上がりましたことから、これからビジョン編の検討・議論が本格化することになります。

また、お手元の資料の一番下に黄緑色のチラシを配布しております。今月 25 日に「さっぽろまちづくりトーク」の開催を予定しております。これは、市長と有識者との座談会ですとか、来場者の皆さんの意見交換を通じて、今後のまちづくりについてともに考えていくものでございます。

そして、来年 3 月を目途といたしまして、本市民会議からご提言をいただき、これを踏まえて「ビジョン編」をとりまとめ、公表いたしたいと考えております。

また、これに引き続き、重点事業編の策定に取り掛かりたいと考えております。素案公表等を経まして、8 月までにはとりまとめ、公表いたしたいと考えております。

資料の右側でございますが、市民会議の取組とビジョン編のイメージを絵的に示したものでございます。

市民会議は、本市が重点的に取り組むべき施策やまちづくりに参加する市民、企業、行政などが担うべき役割などについて、市民とともに考え、共通の認識をかたちづくっていく場として位置づけてございます。

市民会議での検討に際しましては、施政方針をもとに本市が検討した素案をお示しし、本市の考えが市民ニーズと合っているかどうかの検証を行うことを通じて、市民と本市が共有するまちづくりのビジョンへと高めてまいりたいと考えております。

簡単ではありますが、以上で、策定方針と市民会議の位置づけに関するご説明を終わらせていただきます。

次に、資料の説明でございますが、「札幌市の概況」についてでございます。お手元に、資料 6 として、帯状のものがございますが、これは、市域や人口、経済状況、財政状況などのデータをコンパクトにまとめたものでございます。

これにつきましては、次回の全体会議で市政の概要についてご説明させていただくことを予定しておりますことから、本日の説明は省略させていただきます。

次に、資料 7 から資料 9 でございますが、計画の策定に向けて実施いたしましたアンケート調査の結果をとりまとめたものでございます。

まず、資料 7 は「平成 15 年度第 1 回市民アンケート結果」でございます。市民アンケートとは、総務局広報部が年 2 回程度、市民 1 万人を対象にいたしまして、各種施策推進の参考とするために、いくつかの調査テーマを設定して実施しているものでございます。7 月から 8 月にかけて実施いたしました 15 年度の第 1 回調査では、市民の今後のまちづくりに関する意向等を把握することを目的に、「新しいまちづくり計画について」をテーマの一つといたしました。本資料はその調査結果でございます。

資料 8 は「札幌新まちづくり計画策定に関するアンケート結果」でございます。

これは、本市のまちづくりの各分野に関わりの深い方々、具体的には各種審議会や委員会の委員等の皆様を対象としまして、各分野から見た望ましいまちの姿など、新まちづくり計画の策定に関するご意見をお伺いした結果でございます。

資料9は「市民意見募集の状況」でございます。

8月下旬から、はがき、ファックス、Eメール、ホームページ等により、市民の皆さんからまちづくりに関する自由なご意見を募集しております。本資料は、これまでに寄せいただいた65件の意見内容等を取りまとめたものでございます。

以上のアンケート調査の結果等につきましては、今後、議論を進めていくうえでの参考資料として活用していただきたいと存じます。

以上で、ご説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

内田座長 どうもありがとうございました。

今、事務局の方から、簡単な説明と、資料をもとにした報告をいただきましたが、何かご質問等はございますか。

なかなかわかりづらいとは思いますが。私どもがどういうことを議論して、どういうふう意見が反映されるのかということ、今直ちにわかるわけではなくて、議論を進めていく中で、我々自身が検証していくプロセスの中で評価されるのだと思いますので、その時点時点でいろいろ問題があると思いますが、最初にご質問があればお受けしたいと思いません。

どうぞ。

高田副座長 今、ご丁寧にお話しいただきまして、ありがとうございます。

施政方針のポイントの中で、成果指標を導入ということがございました。これは、18年度における成果指標でしょうか。それとも、中間的な成果の指標 指標とまでいなくても、それぞれの分科会においてどの程度進行しているかという評価はあるのでしょうか。

事務局（調整課長） 成果指標については、まさに内部的な検討をしている最中でございます。基本的には、計画期間が18年度まででございますので、成果指標も18年度が基本になるかと今のところは考えております。

高田副座長 私は、中間的にもお話しくださる方がいいと思います。

内田座長 プロセスの中で一つ一つチェックできるような形が望ましいのではないかとのご趣旨だと思います。

事務局（調整課長） それにつきましては、今後検討させていただきたいと思えます。

内田座長 高田副座長のご指摘はごもっともで、それをやればベストだと思います。先ほど私が言いましたように、これは長い目で見ていかなければいけませんので、我々が、この委員会が終わった後に全く関知しないというような態度をとること自体、評価を投げ捨てることとなります。我々は、この委員会が終わった後も責任を分担して持つていくということが評価につながっていくというふうに理解をする方がいいと思えます。

ほかにございますか。

それでは、これから幾らでも発言の機会がありますので、先に進めさせていただきます。

今回は初回ですから、委員の皆さんから、市民会議にご参加したお考え、どういう形で臨まれておられるか、また、日ごろ札幌のまちづくりをどういうふうにお考えになっておられるかということについて、これから個別に議論になると思いますが、皆さんが常日ごろお考えになっておられることをざっくばらんにお聞かせ願いたいと思います。

事務局からは1人2分と言われておりますが、ほとんど不可能なので、最初は、せっかくの機会ですから、できるだけ公募委員の方に先にご発言をしていただきたいと思います。最初に公募委員からご発言をいただいて、時間が余れば、それ以外の委員からご発言願いたいと思います。

それでは、大坂委員からお願いします。

公募されたご理由でも何でも構いませんし、日ごろ、札幌市について思っておられること、または、この委員会がこういうふうに動いてほしいなということでも結構です。よろしくお願いします。

大坂委員 日ごろは、北海道NPOサポートセンターというNPO法人でスタッフをしております。

市民参加のまちづくりということに関心を持ってしまして、一市民としてどうかかわれるのだろうかということで、札幌とか北海道において、市民参加のチャンスがあればいろいろ応募してみようと思って、これまでも幾つか挑戦してきました。また、そこに参加することで、同じようにそこに公募で参加された方の意見とか、専門に取り組んでいる方の意見をたくさん聞いて、参加するたびに、自分の視野はまだまだ狭いなと思うと同時に、とても勉強になっております。

今回も、委員に選ばれるとは思わないで応募したのですが、まず、このようなホテルで開催されることから動揺しているくらいです。ここに参加している中では一番若いと思いますし、経験は足りませんが、若さが反映されるようなアイデアをたくさん出していきたいと思っております。

私としては、札幌は都会だなと思って、私自身も好きで住んでいるのですが、ほかの都市と比べると、冬の間は絶対的に遊び場が足りないと思っています。もっとお金をかけなくても楽しく過ごすすべがあるのではないかと考えています。札幌には公共施設等がたくさんあると思いますが、冬期間の利用についても、ほかの都市よりもっと進んでいかないものだろうかと思っています。この委員会は冬にかけて開催されますので、話し合っ、アイデアを出して、実験みたいなこともやりながら考えていきたいと思っています。

取りとめがなくして申しわけありません。

以上です。

内田座長 事務局に伺いたいのですが、今回の公募委員は、どのくらいの応募の中から10名選ばれたのか教えていただけますか。

事務局（調整課長） 応募は122名ございました。

内田座長 122名のうちの10名ということですね。

事務局 そうです。

内田座長 それでは、木路委員からお願いします。

木路委員 木路と申します。

私が公募に応じました理由の一つに、市長の発言がございました。札幌を文化発信の地にしたいという言葉です。これは非常に魅力的な言葉です。ただし、発信するには、受け手がなければ成立しません。そして、受け手は非常にぜいたくでして、受けるに値するものしか受けません。そこで、札幌からどのようなものを発信できるかということに非常に関心を持ちました。

もう一つの理由は、札幌は非常にすてきなまちですから、より一層すてきなまちにしたいなという思いがありました。

すてきな理由は二つあります。一つは、環境的にも非常によろしいということと、私は障がい者でもありますので、バリアフリーについては欧米先進国に比べると大変発達していると思います。

これは、かなり心情的な問題になりますが、15、6年前に、ある新聞社が、札幌の地下鉄のシルバーシートはもったいない、ご老人、障がい者が来た場合に立つようにした方がいいのではないかという記事を書きました。

私は、これは間違えていると思ひまして、その記者に会いまして、やはり東京出身なのです。東京の場合は非常に長い時間乗りますので、どなたも座りたいという気持ちはわかります。ただし、私は余り地下鉄を利用しませんが、たまに利用しますと、いつもシルバーシートが空いています。これは、障がい者あるいはご老人にとっては非常にありがたいことなのです。いつ乗っても空いているので、いつでも外出できるという気持ちになれるのです。

空いているときは座って、埋まっているときは立てばいいではないかと言いますが、ご老人も、障がい者も、立っていただくことに非常に苦痛を感じるのです。申しわけないと思うのです。

日本のバリアフリーに関しては、ソフトの面ではまだ行き渡っておりません。それであれば、ハードの面で行き渡っている札幌が、札幌の良心ではないかと思っただけです。

そのような幾つかの理由がありますが、私が特に関心を持ったのは文化、教育です。これについてはお手伝いできるかなと思っています。あるいは、自分自身が障がい者でありますので、感想くらいは述べることができるかなと、そういう思いで参加いたしました。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、黒田委員、お願いいたします。

黒田委員 黒田です。

札幌生まれの札幌育ちです。だれよりも札幌を愛しています。

私は、自分の住むまちは自分たちで守り育てていかなければいけないというふうに考えております。現在、私は地域活動とボランティア活動をさせていただいております。11年前に交通事故に遭いまして、腰ついの骨をすべて粉碎骨折しまして、左下肢の内側は麻痺して感覚がございません。それまでは、趣味でマラソンをしていまして、休みのときは朝昼晩で30キロ走るといこともしていまして、自分のタイムとか順位にこだわっていました。そして、走れなくなりましたから、ボランティアとか社会福祉の方に興味が行きまして、今はボランティア活動をさせていただいております。

これから私たちの後を担っていくのは子供ですから、子供を大事にしなければいけないと私は考えております。

私は、仲間たちと、雪まつりが終わった後に、雪像を壊して雪解けを待っている状態というのはちょっと寂しいということで、残雪を利用していろいろなものをつくろうと考えました。毎年、大通公園を使わせていただいて、子供さん方にも計画の段階から一緒に入ってもらいました。大人たちが日時を決めて、行事を決めて、そこに参加しませんかと声をかけるのはちょっと違うなと思っていまして、子供たちの方から、何月何日に残雪を利用してこういうことをやるので、みんなで一緒にテーマを考えようという形でやっております。

今まで3回やりまして、非常に多くの子供さんに集まっていたきまして、お父さん、お母さんも一緒に集まって、最後にはぶた汁をつくってみんなで食べました。

そして、残雪を利用していろいろなものをつくった後に、普通は「壊してはいけない」と言うのでしょけれども、私たちは、「さあ、みんなで壊そう」と言って、みんなで元氣よく壊すということをやっております。

今、そういう活動もさせていただいておりますが、これから1年間、皆さんといろいろなことを話し合えればよいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、柴川委員からお願いします。

柴川委員 柴川と申します。

私は、静岡生まれですが、札幌市南区の藤野に住み始めて35年たちます。そして、本当に札幌というのはすてきでいいところだなと思っておりますし、大好きです。

私が今目指しておりますのは、心のバリアフリーということです。札幌市の公園計画課が7年前にむくどり公園というバリアフリーの公園をつくっていただきましたが、その公園が有効に使われるように、公園の目の前の私の自宅を開放して、むくどりホームふれあいの会をやっております。

この活動を続けて、いろいろな人との出会いがあって、いろいろな必要が出てきました。子育て支援の問題も、障がい児・者の問題も、また高齢者の問題も、学童の育成の問題も、本当に多様な必要が出てきて、私は、大きいとは言えないテニスコート2面分のバリアフリーの公園と、たった1軒の家の開放とで、これだけの人たちと出会えるのかと思ったと

きに、もっと受け入れ態勢を整えればいろいろな形でいい活動ができるなと思いました。

今週の日曜日には、「こどもフォーラム」というものを開催して、子供たちに、むくどりホームでどんなことをしたいか、どんなことをしたらもっとみんなで仲よくできるかという話し合いをしたり、また、12月には大人のフォーラムをしたりして、これからの活動についても考えているところです。

今回、このようにまちづくり委員にさせていただいて、何か一つの実験台ではないですが、テストケースとしてこういう活動もあるということもわかっていただき、そこから、もしかして何かつかめるような資料の提供ができればいいなと思いながら、本当にすばらしい札幌のまちづくりのために、これからも小さな活動を続けていきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

内田座長 どうもありがとうございました。

杉森委員、お願いいたします。

杉森委員 こんにちは。

NPO法人札幌VOの代表をしております。

今回、私が応募したきっかけは、フリースクールで子供たちを見て、この子供たちがどうやったら札幌のまちに出でいけるのだろうか、そういう私個人の悩みから応募しました。フリースクールに来る子供たちは、見えない障がいを持っていたり、精神的にすごく弱い面を持っていたりしますので、どうやったら彼らが元気になって、札幌のまちの誇りある市民として自覚を持って生きていけるのかなと、子供たちを見て常々考えます。

うちは、音楽をやっています、子供たちをどんどんまちに出しているのですが、一番長い子供たちで、もう10年、一緒に音楽をやっています。北海道を元気にするバンドということで、たくさんのところにでていって演奏するのですが、彼らでさえも、自分たちが、もう社会人ですが、社会に出ていって、札幌のまちに足がついているという実感がない若者たちです。これから社会に出ていく若者に希望や夢を持ってもらえるプランをというふうに私は思っております。

子供たちは、もっとたくさん社会を見なくてはいけないと思います。自分たちのことも考えて、そして周りも見れる若者になってほしいなと常に思っております。元気プランで元気が出るまちづくりということで、若者が一人でも二人でも、このまちで生きていてよかったというまちになることを願っております。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

高田副座長、お願いいたします。

高田副座長 私は、31歳のときに夫が亡くなりました。子供が1人いまして、3カ月しまして2番目の息子が生まれまして、44年くらいになりましょうか、一人で育ててまいりまして、もう孫もおります。

そんなことで、自分がとても困るから人様もみんな困るのではないかと思ひまして、母子寡婦福祉連合会というところに入りまして、10年くらい団体の代表をいたしました。それから、10年の間がありました、サケの回帰ではございませんけれども、10年してまた復帰いたしまして、4年ほど私はその団体で仕事をしてまいりました。

その中で、女性問題、子供を産み育てるといふことは大変なことだと思ひましたし、また、教育が一番大切なのだといふことをしみじみ感じながら今日まで来たわけでございます。私は、一人でやってまいりまして、何事も一人で決断してきまして、そういう意味では非常に行動的にやってきたかなと思ひます。今、この年になりまして、好奇心旺盛なものですから今回も応募させていただきましたけれども、私は特異な存在かもしれませんが、私のようにみんなが元気であればいいと思ひます。

札幌は本当にすてきなまちだと思ひますが、そこに住む人たちもすてきでありたいと思ひます。また、私は、建築に対する色の感じ方をとても大事にしていきたいと思ひています。色のバランスとか、そういうことも含めて、まちづくりといふのはとても大切にしていきたいと思ひております。

それからまた、この間、産業再生機構の斉藤さんですか、きのうの道新に出ておりましたが、この間、講演会に行つてまいりましたが、あの中で、大変いろいろとお聞きしたのですが、なかなかぴたりきません。官型といひましようか、そういう部分もたくさんあるといふ中で、中小企業同友会の方がおっしゃっていましたが、再生して、お金を出して生き生きしたにしても、それが供給過剰になつてただめになるという傾向もあるのではないかと。それは、新聞には載つておりませんが、その中でおっしゃつていまして、私も、それについては本当にそうだなと思ひました。

ですから、つくればいいといふものではなくて、生産があつて、そこに住んでいる人たちの生存権といふか、その人たちの生活といふものがある、そのバランスの中で、循環型社会といふのは必ずしもごみの問題だけではないなといふふうに思つたりいたしました。

そういうことで、私は大変好奇心旺盛なのです。また、私がここに挑戦したといふのは、この4月から厚生労働省のモニターをしておりまして、月に2本くらい出すときもありますが、エイズの問題も出しましたし、食糧問題も出しましたし、尊厳死の問題も出しましたし、いろいろな分野で出したりしまして、そういう意味での好奇心旺盛といふことでございまいしょうか。

それから、この間、10月17日、18日に滋賀県の大津に行きまして、「日本女性会議2003 大津」といふのがありました。そこで私は政策の分科会に入つたのですが、尼崎市長、女性市長たちが出てきておりましていろいろな問題提起をしておりまして。そのときに、公募委員の話が出まして、私が出したわけではないのですが、公募委員という制度を国においてももっともっとやるべきだといふ意見が出ました。私は、立ちまして、実は札幌はこうなのです、私も応募しているのですと。まだそのときはわからなかつたのですけれどもね。そんなことで、札幌を大変宣伝してまいりました。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、田村委員、お願いします。

田村委員 私は、本業は行政書士をやっておりまして、ボランティアで若い起業家支援とか、浜辺のごみ拾いなどの活動をやっております。

本業の中でも、中小企業支援ということで、市とか国の機関がどういうふうにしたらもっと効率的なものになるのかとか、起業家支援の面では、若い起業家がどんどん育つような施策がもっとできるのではないかと思ひ、そういうものを今回のまちづくり計画の中に反映してもらえればなと思ひまして、そういう意見を言いたくて応募しました。

それから、気になることは、札幌市も東京のような形で犯罪がすごく増加してしまひて、若い人たちが平気で殺人などの事件を起こすような傾向があります。これは、治安の悪化とか、景気低迷とか、雇用問題なども連動しているのではないかと思ひます。私は、今回、経済とか雇用の問題でいろいろなお話ができればなと思ひております。

よろしくをお願いします。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、燕委員、お願いします。

燕委員 私は2人の子供がいます、双子ですが、一人は障がいがあります。子供ができる前に、東京に8年間くらい住んでいまひて、夫婦で札幌に帰ってできた子供なのです。そのときに、札幌の緑がすごく好きで、やはり札幌に帰ってきてよかったと思ひましたし、これからも札幌に住み続けたいと思ひています。

ただ、障がいがある子を育てていくときに、福祉の面では札幌はすごく遅れているということが言われています。全国的には遅れていないのしょうけれども、先進地域を考えると、もう少し優しいまちになってほしいなという気持ちを持っています。

また、うちの母が82歳で同居しているのですが、要介護ということで、高齢者と障がいのある息子と健常と言われている息子と主人の5人で暮らしています。

うちの息子たちは、保育園で育った後、学童保育所つばさクラブというところで育ちました。施設はバリアだらけですが、心のバリアフリーとか、参加の平等性ということに初めて触れまして、私も息子も当たり前の人間なのだという自信を持ちました。

そのことから、どんな人も当たり前、市民としての責任も果たしながら生きていくまちにしたいと思ひながら、いろいろなところで親として発言したりしています。

今は、つばさクラブは卒業して、18歳になりますが、つばさクラブで障がいのある子もない子もともに育つという地域にできないかということで、そこを卒所した親たちやOB、OGの子供たちでつばさ応援団というものをつくりながら、地域のたまり場をつくって、子供からお年寄りまで生き生きと暮らせる方法を探っています。もう活動してしまひて、資金的なものは何もありませんが、自分たちの手づくりで活動してしまひて、その中から見えてくる地域づくりというものを発信したいと思ひています。

それから、障がいのある人の世界を勉強しますと、いろいろな障がいと、障がいと言われていないけれども、支援の必要な方が見えてきます。そこからも、特殊教育の中でPTA活動も長くしてきましたので、本当のバリアフリー社会になるための意見を言っていきたいと思って今回は参加しました。

よろしくをお願いします。

内田座長 どうもありがとうございました。

中島委員、お願いします。

中島委員 中島と申します。

会議の進め方も含めて、きょう勝手に作成したものを配付します。

以前も、ちょっとだけ、本当にわずかな体験ですが、国の映画にかかわる会議に参加したときに、いつも、審議会的なものは、報告を受けて、そうかそうかとか、そういう感じになってしまって、全然おもしろくなかったです。そこで、せっかく参加するのであれば、これは思いつきで持ってきてしまいましたけれども、みんなで、会議をする前に、簡単な発言メモなどを持ってくると、時間が少ない中で、非常に合理的に進んでいくなといつも感じています。

私は、自分たちの仕事の面でも、ミーティングのときは、いつも必ず宿題を出して、その宿題の回答をみんな持ち寄る形でミーティングを始めていますので、やはり、そういう形で、できるだけ合理的にやっていくにはそういう方法がいいのではないかとということで、勝手ですが、持ってきてしまいました。

私は、狸小路6丁目でシアターキノという市民出資型の映画館の運営の代表をしております。自分自身が映画という中で最近特に感じてきたのは、皆さんご存じのように、JRタワーという大きな商業施設ができた結果、札幌では、狸小路を中心に映画館がどんどんつぶれていっています。それは市場原理ですから仕方ないことですが、僕は、すごくショックだったのは、なくなってしまった3丁目の松竹の遊楽館ですが、子供時代からずっと育って、その中で映画を見てというときに、今まで見た映画の記憶は、映画はもちろん残っているのですけれども、自分の記憶が遊楽館の閉館とともに全部なくなるような気がしているということを感じられていまして、それはすごくショックなことだったのです。建物だけではなくて、自分が今まで生きがいであった映画が全部崩壊していくような気がすると。

やはり、僕が思ったのは、こういうのは地域のコミュニティーみたいなものと同じで、自分がずっと育ってきた気持ちというものは、一つの象徴的な建物だけではなくて、地域の人のつながりやいろいろなことの崩壊とともに自分の気持ちが変わってしまう、そのやるせなさなのです。ですから、まちづくりの基本は、コピー風にかきましたけれども、新しいものと古いものが同居できるまちづくりと。例えばそんなことをできないかと思っております。

私はそういうふうにかきましたが、この間の面接のときに、4分野くらいに分かれてと

言われましたので、思いつきで自分なりに書いてきました。緑と環境に関しては、ある建築家の友人の受け売りで私の言葉ではありませんが、それぞれわかりやすい、先ほどご説明がありましたように、重点的なものに関しては市の方でおつくりになるということなので、ビジョンというところでは、市民の皆さんにこんな感じで作ったのだということができるだけわかりやすく伝えたいと思うのですが、それはやはり具体性だと思います。意外とわかりやすく見えて抽象的な言葉というのは、すごくあやふやな感じが多いですから、具体的にこれをやるのだという具体的なものを言葉にしていくということが重要なのではないかと考えて、例えばこのような感じで、私の専門分野は芸術文化ですから、ぜひ公共施設を具体的にもっとみんなが使うことによってパブリックな施設なのだというふうに発想を完全に転換したいと思っております。

私自身は、勝手にしたけれども、できるだけ皆さんがレポートを、市の方にお任せするのではなくて、自分たちがそれぞれ少しずつそういうものを持ち寄ってどんどん議論を進めていくような会になればいいなと思っております。

内田座長 どうもありがとうございました。

林委員、お願いいたします。

林委員 林と申します。

仕事は建築関係の計画事務所をやっておりまして、業務の内容としては建築やまちづくりの計画業務を日ごろやっております。

札幌市のまちのど真ん中に、北海道まちづくり促進協会という全道のまちづくりを支援している異業種の集まりの団体があるのですが、そこに所属しております。そのまちづくり協会の中に、今、10個ほどの研究会がありまして、そのうちの一つに、コンパクトシティ研究会というものがありまして、私はその座長をしております。

市民会議に応募する際のレポートにも書きましたし、面接のときも、コンパクトシティということをご提案したいということをご申し上げました。

コンパクトシティの話をし始めると結構長くなりますから、詳しくは申し上げませんが、分科会の中で少し詳しくお話しさせていただきたいと思っております。

コンパクトシティの概要だけ申し上げますと、最近、どこの市町村でも、総合計画とか長期計画、あるいは、都市計画マスタープランというものがありますが、そういった計画書の中には必ずと言っていいほどあらわれてくる言葉です。市街地をコンパクトにしましょうという話ですが、それをやるのはいいということは広く認識されていますが、なかなか実現しない、実現の難しいまちづくりの手法ですが、何とかそれを札幌から率先して全国に先駆けて実現していきたいという思いで今回応募させていただきました。

よろしくお願いいたします。

内田座長 どうもありがとうございました。

今、公募委員の方々から、ご自身の体験から、かなり具体的な形でいろいろな方向性を持ったご提言、発言がありました。これからテーマを絞って何度も議論しますので、その

たびに積極的にご発言をお願いしたいと思います。

協力していただきまして、非常にスムーズに行っていますので、そのほかの委員からも一言ずつお願いしたいと思います

阿部委員からお願いいたします。

阿部委員 私は、北海道ウタリ協会の理事をしておりまして、札幌の人間でございます。

私は、昭和40年に田舎から札幌市に出てまいりまして、ちょうど39年になります。その当時の札幌市というのは、人口70万人で、こんなビルはほとんどなく、駅前通にも電車があって、少し郊外の方に行きますと、白石、北区、東区に行きますと、畑や水田があって、大都会ではあるのですが、非常に田舎が近くて、札幌に出てきても何不自由なくいたのです。しかし、札幌はどんどん建物が取り壊されて、あっという間に大都会になりまして、この資料にもありますが、間もなく人口が100万人を突破し、現在は180万人という大都会になりまして、札幌市には昔の面影が全くなくなってしまいました。そういう面では、札幌の変わりように驚いている一人であります。

ご存じのように、社団法人北海道ウタリ協会という名称がありまして、私は日本の先住民族、アイヌ民族の団体の理事でございます。私たちは、日本の先住民族として、先住民族の権利回復運動、あるいは差別の撤廃ということで運動を進めております。

ご存じのように、世界では、1993年に国際先住民年という1年がありまして、94年から来年まで、世界の先住民の国際10年という10年があります。

ところが、私たちの主張といいましょうか、先住民族の存在、あるいは、差別の撤廃ということを訴えています。日常、なかなか話題に上ることはありません。いろいろな書物の中で、私たちの大先輩、あるいは、仲間が、アイヌあるいは先住民族の考え方、精神というものを発表しているのだから、先生方もお聞きになっていることがあるかと思いますが、私たちの先祖は、この地球あるいは大地というものは、人間が支配する、あるいは改造できるものではないのだ、この地球あるいは大地というものは、カムイから私たちがお借りして暮らしているのだと、ともに暮らしているのだということをよくおっしゃっています。

まさにそのとおり、そういうことを考えてみますと、今の札幌は、ミニ東京のようになってしまい、ニューヨークのようになってしまって、コンクリートジャングルで、ほとんど人が歩かないところにもアスファルトを敷いて、コンクリートを敷いてしまっていますし、札幌市もどんどん木を切ってしまうと、もう木がなくなってしまっているということもいつも言われております。ですから、私は、札幌で、もう木を切るのはやめてもらいたい、そして、木を1本切ったらどこかで10本植えてもらいたいと思います。

また、地名の問題にしても、今から130年前までは、この札幌、北海道は全部アイヌ語の地名であったわけです。それが全部日本語になってしまって、アイヌ語が日本語に変わっているのですが、今の子供たちにすれば、これはアイヌ語ではないと言うわけです。札幌も、円山というのは本当はモイワという名前です。モイワというのは小さい山という意味が、そのモイワが、どういうわけか、インカルシペという藻岩山に名前が行ってし

まっているわけです。苗穂にしても、篠路にしても、茨戸にしても、琴似にしても、月寒にしても、豊平にしても、全部アイヌ語の地名があって、古くから地名のいわれがあったわけですから、ぜひそういうこともまちづくりの中に生かしていただきたいし、そういうことを今後いろいろな場所で発言していきたいと思います。

また、アイヌ文化という面から言いますと、歌や踊りも含めて、アイヌの考え方というのは、今、新たな創造を含めて、若い人も中心に、日本人をシサムと呼んでいて、シサムというのは隣のよき人という意味ですが、シサムとアイヌは仲よくしていこうという思いで私たちは今努力をして頑張っておりますので、今後ともそういう方向で、アイヌの文化というものを何らかの形でこれから紹介し、また発展させていきたいと思います。

前の桂市長のご尽力によって、また皆さん方のご協力によって、今年、小金湯というところにアイヌ文化交流センターというものをつくっていただきまして、この12月20日に正式オープンすることになりました。上田市長にも、市の皆さん方にもたくさんお世話になりました。ここでまた、新たなアイヌ文化の発信をしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、荒委員、お願いします。

荒委員 荒でございます。

これから四つの分科会に分かれて、おのおの仕事をされていくのだらうと思いますが、私は、仕事柄、都市まちづくりといえますか、環境の方にむしろ興味があったのです。しかし、商工会議所の議員に属していて、中小企業委員会の副委員長をやっておりますので、分科会の中では経済とか雇用の問題の話をさせていただこうと、そういうことで今回は参加しております。

札幌商工会議所も、規模からいきますと、会員数が2万5,000以上は間違いなく、東京、大阪に次いで全国で3番目に大きな商工会議所であります。そういう中で、東西南北に商工会議所の支所がありまして、我々もたまたま支所に行きまして地域の方とも話をする機会がありますが、この2万5,000社は零細企業や中小企業が圧倒的ですけども、ここ何年間、経済が非常に停滞している中で会員がどんどん減っていております。会員あつての商工会議所なものですから、一方では会員増強ということもありますが、どうしても、会員増強よりも会員が減退していく数が多いということで、我々も非常に深刻な形で中小企業、零細企業の人方のところに行って、いろいろ話を聞いたり、将来的にはどうしたらいいか、こうしたらいいという話を随分するようになってきています。

そういう中で、札幌新まちづくりという形のができまして、ぜひ参加してくださいということでした。やはり、札幌市もどんどん元気にならなければいろいろな企業もどんどん育ってこないという意味もありまして、どこまでお手伝いできるかわかりませんが、わかりましたということでここに参加したわけです。

話が変わりますが、私の職業をPRするわけではありませんけれども、私は29歳のときに札幌に出てきてまして、もう30数年になります。やはり、旭川から出てきてまして、札幌という大きな都市に夢を持って来たことは事実です。私は45年に札幌に入ってきてまして、仕事もうまくいって、47年に、今、大通西4丁目にあります新大通ビルという、下に商工中金が入っております、札幌銀行がありますが、あのビルは、昔、北海タイムスの本社があったときにうちが分けていただきまして、その後すぐに新しいビルをつくろうと思ったのですが、相手は新聞社なものですから、輪転機がなかなか次のものがないということで、そうこうしているうちに第1次オイルショックが来まして、一挙に建築費が3、4倍になって、何だかんだやっているうちに、結果的にはうち1社で持ちこたえられなくなって、今は札幌銀行と一緒に持っている次第であります。

あのビルをつくるのも、札幌の大通に面していますから、札幌市とも随分協議をしました。観光的にも、決しておかしなビルをつくっては困ると。結果的には、そのおかげで相当お金がかかったのですが、レンガも北海道のレンガではなくて、伊那の方のものでぐるり回しまして、非常に高いビルになりました。もう25年になりますので、いまだかつて、れんがそのものが大通にはえて、私は自分でつくったと自負しているわけではないけれども、皆さんからすばらしいビルですねと言われております。

それから、私の本職はマンションをやっておりまして、今、札幌のまちの中で133本くらいうちのマンションが建っていると思います。常に地域の人方とのコミュニケーションとか、先ほどどなたかがおっしゃいましたが、最近はバリアフリーも各企業は随分研究してきておりまして、やはり地域に合った建物、さらに、バリアフリーをどんどんつけ加えていって、地域に合った物づくりを私はやってみたいと思っています。

今回は、経済、雇用の方に入っておりますので、また全体会議のときに別な形でお話しさせていただきたいと思っております。

内田座長 どうもありがとうございました。

飯塚委員、お願いします。

飯塚委員 西区琴似八軒で15坪ほどの小さなフリースペースを運営しております。そこで、演劇や音楽やダンスの練習とか、小さな公演、あるいはパーティーをしたり、会議をしたり、さまざまなことに使っていただいております。

私は、たまたま演劇の周辺で仕事を続けております。私自身は役者も演出も何もしません。表現にはかかわりません。その周辺のマネジメントの部分でずっと仕事をしてまいりました。そんな関係で、今、八軒の連絡所の皆さんとか、地域の方々、あるいは、地域にこだわらず、いろいろな方にかかわっていただきまして、「演劇でまちづくり 八軒実行委員会」という小さな集団をつくって活動しております。

琴似八軒のあたりは、屯田兵の歴史を初めとして、古くから農業試験場、工業試験場とさまざまな歴史を通り抜けてきた地域です。もちろん、現在も、例えば、私も最近初めて知ったのですが、琴似は全国でも有名な、スーパーマーケットの激戦地域でして、モデル

地域，テストケースということでその業界では有名な地域なのだそうです。そのような八軒の古い話，新しい話，そういうものを，小さな演劇，また演劇に限らず，放送劇とか，紙芝居でも，人形劇でも，朗読でも何でもいいのですが，そういう小さな表現活動にしていこうということをしております。

芸術文化ということ言えば，作品そのものが非常に高い芸術的価値を持つ，そういうことをつくることを目指すという方向性もとても大切だと思いますが，そういう活動を通じて，地域に緩やかな人のつながりを常につくり出していく，そのことによって，文化や教育や生活の大切な問題に取り組もうとするとき，私どもは最近人だまりというふうに呼んでいます，まず，何かしようというときに，「さあ，集まれ」と言っても，なかなか人のつながりはつくれません。あらかじめ，そこに緩やかなものがあるって，そこで何か解決しなければいけない問題があるときに，そこから何か具体的な活動が起きていく，そのための基盤を，文化あるいは表現とか，そういうものを通じてつくることのできるのではないかと考えております。

私の小さなスタジオでも，いろいろな文化活動とともに，何かおいしいものを食べたり，そういう活動を常に組み合わせて，いろいろな人が集まれるようにということをいつも意識して活動しております。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

伊藤委員，お願いします。

伊藤委員 北海学園大学の伊藤と申します。

経済学部で社会保障を担当しているのですが，私自身，社会福祉の仕事は，東京都の職員として20年ほど医療福祉の仕事をしてきました。それで，こちらの方にご縁があって，大学の教員として来てから約10年で，やはり，この場で本州出身の多くの方がそうであるように，札幌に住んでいてとても気持ちよいですし，とても好きなまちではありますが，時々，それにふと陰が差すことがあります。

一例を挙げますと，北海道に伊達というまちがありますが，そこは，知的障がい者のケアということでとても評価を得ているところです。当初，山の上に巨大な施設ができたのですが，だんだんまちの人とか，そこから脱走する人が後を絶たないのです。なぜあの人たちは山の上に住んでいるのだろうか，まちに住んでもらおうという話になって，それで，まちの中に，今本当に，道を歩いても，あそこにもここにもというふうにとっても溶け込んで暮らすようになりました。

ところが，まちの方がそうやって努力すると，山の上の施設にまた空きができる，そこに全道から障がい者が来るという構図になりまして，今，伊達のまちの障がい者人口はともふえてしまいました。

その方がおっしゃるには，ここに住んでいる障がい者の7割が札幌出身とおっしゃるのです。そういうことを考えますと，それは共生と言えるのかなと。共生と言いながら，

それが今起きているのはとても変ではないかと思えます。

私は、伊達のまちも大層なお金をかけてやっているわけではなくて、むしろ、一番大層なお金がかかっているのは山の上の施設なのですね。どの領域でも同じだと思いますが、そのサービスを求めているものと、提供するということがきちんと結びつく仕組みをつくることによって、逆に従来型の弱者を保護してあげましょう、働かなくてもいいですよという福祉から、今はできることは全部やってくださいね、そのかわり、それができるような仕組みづくりは頑張りましょうという福祉に変わってきていると思えます。

ですから、私は、そういう意味で、札幌は、決してやみくもな供給過剰の福祉ではない、本当の意味の必要なところと供給がきちっとつながる仕組みができて、その中で本当の意味での共生ができたらいいなと常々思っております。

今回、このような機会をいただいたので、少しはできることがあるかなと思って参加させていただきました。よろしくをお願いします。

内田座長 どうもありがとうございます。

岩田委員 北海道医療大学の岩田です。

私の関心は、子供と家族の福祉ということですが、自分の研究のテーマとかかわって、子育てしているお母さんの相談を受けたり、調査をしてきたり、あと、4年くらい前から、札幌近郊の市で、スクールカウンセラーをする中で、乳幼児期よりも少し上の中学生を持っている親御さんたちとも接する機会がありました。その中でいろいろな家族の方に接していくと、例えば、子育てに月に10万円近くの教育費をかけている家族がある一方で、学校の給食費をどうしようとか、今月の残りを給料でどうやって食費のやりくりをしようかという中で子育てをしている家族もいます。スクールカウンセラーで中学生に会っていても、同じ不登校とか非行という問題でも、家族全体が情報なりネットワークなりを、所得の部分も含めて、持っている家族と、そうではない、家族の持っている資源が少ない家族とでは、現象としては不登校だったり非行であっても、問題のあらわれ方とか解決の仕方は、やはり違っているなということを感じています。

今回、まちづくりというところでお手伝いさせていただくときに、先ほど資料説明の中でもいろいろな市民の方の声ということで拳がってきましたが、ややもすると、弱い立場の人は、アンケートを書いている暇もないということがありますので、声が上がりにくい場合があると思っています。最近、テレビなどでもホームレスの問題とかシングルマザーの問題なども取り上げていただいているので光が当たる部分もありますが、それは、一時的にブームになって光が当たっても、その後、ブームが過ぎてしまってマスコミに取り上げられなくなると、社会的に弱い人たちは余り声を上げていかないというところで、注目されなくなってしまう。でも、彼ら、彼女たちの生活は綿々と続いていく中で、そういう人たちの声を代弁する形で何かお手伝いできたらいいなと思っております。

どうぞよろしくお願いします。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、太田委員、お願いします。

太田委員 北海道大学工学部で環境工学を専門としております太田です。

私は環境問題が専門ですが、私から見ると、札幌のまちは、日本の他の都市や国際的に見ても非常に環境はいいと思います。ただ、だから何もしなくていいというわけではなくて、より環境をきちっと守っていかねばならないだろうと思います。

環境ということから言うと、市民のアンケートの中にもありましたように、一つは、もう少しCO₂を排出しないような雪対策はできないだろうか。それから、札幌のまちな真ん中で自動車が渋滞しているということも含めて、もう少し自動車を減らせないか、自動車に頼らないでまちな真ん中を歩けるようにできないだろうか。それから、市長も自転車愛好家だそうですが、冬は無理でも、夏から秋にかけて自転車をもっと自由に使えるまちなできないだろうかと個人的に思っております。

内田座長 どうもありがとうございました。

大沼委員、お願いします。

大沼委員 大沼でございます。

専門は、教育学部でスポーツ社会学をやっています。

何をするとところなのかという説明はなかなか難しいのですが、例えば、昨年、札幌でワールドカップを開きましたけれども、それは果たして市民のためにどうだったのかとか、72年の札幌オリンピックが札幌市に与えた影響とか、現代におけるスポーツの問題を考えるのが私の専門とするところです。

私の出身は山形でして、平成元年に札幌に参ったのですが、札幌の冬には非常に感激しました。こんなに大きな都市で、30分くらいでスキー場に行けることに非常に感激しまして、毎日のようにスキーに行っていました。海外をいろいろ回っているある先生に聞きましたら、世界の中でもこんなに大都市でスキーができるところはないと言っておりました。大抵、スキー場というのは山奥にあります。ノルウェーのリレハンメルは、非常にへんぴな山奥にありまして、大きさはこちらで言うと深川市くらいですが、そういうところでオリンピックを開催したわけです。そういうところでも、環境オリンピックということで、世界にメッセージを発することができました。

そのように、スポーツというのは、大きなメッセージを発信するメディア性を持っております。

札幌は、ワールドカップを開催したり、プロサッカーチームのコンサドーレもありますし、来年は日ハムが来ますので、そういったものと実際の趣味のスポーツ活動はどういう関係にあるのかということはこの会議の中で考えていければと思っております。つまり、いろいろな方がおっしゃいましたが、市民のスポーツの支援環境をどういうふうにつくっていったらいいのかということを考えていきたいと思っております。

以上です。

内田座長 どうもありがとうございました。

工藤委員，お願いします。

工藤委員 札幌地区ユニオンの副代表を務めております工藤と申します。

札幌地区ユニオンというのは，札幌とその周辺で働いている人たちの労働組合の集合体ですが，連合に所属しております。

日常の活動としましては，組合に入っている人，入っていない人を問わず，一般市民の方から職場の問題の相談を無料で受けております。

この数年，雇用の問題の相談がふえる一方でして，内容もすごく深刻化しています。札幌は第3次産業の都市ですが，第3次産業の雇用はパート化が非常に進んでおります。私は，パートという不安定な雇用と低賃金という問題を，まちづくりの会議の中でいろいろな立場の方たちのご意見を伺いながら考えていきたいと思っています。

これは私たちのテーマでもありますが，札幌のまちで，長期的でなくても安定した雇用と人間が生活しているだけの最低の収入というものを得られなければ，札幌がどんなに文化的，芸術的なまちであっても，そういうものを享受することができないということにつながります。また，札幌市の側からすると，低賃金であるために税金を払わなくてもいい労働者がふえていくわけですから，それは市にとっても非常によくはないことだと思います。

そういう面で，皆さんと一緒に，生き生きと働けるまちを実現するために意見を出していきたいと思っておりますので，よろしくをお願いします。

内田座長 どうもありがとうございました。

杉岡副座長，お願いいたします。

杉岡副座長 いろいろな方のお話を伺いますと，相当具体的な提案や問題意識が明らかにされておりますので，私は，皆さんの話をどのように組み立てていけばまちづくりプランに結びつけられるのかについて，スムーズにまとめていけるように，座長を補佐していきたいと考えております。

内田座長 どうもありがとうございました。

中井委員，お願いします。

中井委員 私は，環境デザイン，建築，景観形成の分野でいろいろ発言させていただいております。

私は東京から札幌に来て20年近くたちます。札幌に来たときは2歳と4歳の子供がいたのですけれども，公園で遊んでいると，札幌の子供たちは子供に対する接触の仕方がとても優しくかったです。全然知らない子でもすぐに受け入れてくれて，仲間に入れてくれるようなところがありました。そういう意味では，札幌というのは子供を持った家族が大変住みやすいところなのだという印象をまず持ちました。それから20年間，景観とか環境デザインの話をしています。

札幌は，歴史的あるいは地形的にも大変すばらしい魅力を持っていますが，この数十年間の動きの中で，よいものがどんどん消耗されています。景観もきちんと意識しながら形成していく，あるいは手入れをしていかないと，どんどんすばらしい景観がなくなってしまう

うのです。

先ほど、中島委員のお話にもありましたが、人々の心の記憶にある風景というのは失って初めて気づくことがとても多いのです。現実の風景がなくなったときの喪失感というのは、自分のふるさとが部分的になくなっていくような、心のふるさとがなくなっていくような大変強い失望感を味わうのではないかと思います。

そういう魅力ある景観と、これからつくっていくものを、札幌という文化の中でうまく熟成させていかなければいけないのですが、現実ではどちらかと言うと、つくっていくことばかりに目が行ってしまいがちです。残すものはただ残せばいいというのではなくて、保全するものと創出してゆくものとをうまく共鳴させながら、これからの札幌のまちづくりとして育てていかなければならないわけです。

まちづくりというのは、経済性の問題、緑の問題、交通の問題、バリアフリーの問題、さまざまな問題が複合化した中で、きちんと魅力ある景観として目に見える、あるいは体験する都市空間の場として形成して行かなければいけないのです。そのときに根底にあるのは、市民文化であり、行政の力ではないかと思います。その辺がまだうまく共鳴しながら機能していないのが現在の札幌なのかなという印象を持っています。

それから、ここにお集まりの方々にはまちづくりに対して大変意識が高いと思いますが、教育ということを考えてみると、札幌の小学校の副読本を見たとき、果たしてまちづくりのことが書かれているかという点、ほとんどありません。歴史のことしか出ていません。歴史の中でのまちづくりの話はあるのですが、現在こういうふうなまちづくりをしているのですよとか、市民参加のまちづくりとはこうなのですよという取り組みが全然紹介されていません。

でも、他都市を見ますと、北九州市とか、東京の一部の区とか、横浜市とか、まちづくりに関心のあるところでは、小学校の副読本の中にすでに出ているのです。まちづくりの項目の中に、交通の問題も、緑の問題も、バリアフリーの問題、自分たちでまちを考えていくようなウォッチングやワークショップの問題なども全部紹介されています。

ということは、今後10年、20年たったときに、札幌はそういう人材を育てていないということが、きっと札幌の街並みや都市景観の中に目に見えてあらわれてくると思います。我々のまち札幌では、そういう都市景観をある意味で観光資源として活用しているところもありますし、自分たちの誇りとして街並景観を見ているわけですから、やはり、すぐにでもそういう教育を始めていかなければいけないと思います。時間はどんどんたっただけでいきますし、子供の成長も大変早いわけですから、そういうことを早い段階で進めていくことが大事なのではないかと私は思います。まちづくりにおいて今やるべきことはすごくたくさんあると思います。

そういう話し合いの場として、この委員会で発言させていただければと思っています。

内田座長 どうもありがとうございました。

それでは、平本委員、お願いします。

平本委員 平本でございます。

私は、北海道大学の経済学部で、経営学、特に経営戦略の分野の研究をしております。今回、そういう立場で参加させていただきまして、経済・雇用の分科会に所属することになると思います。経済学が専門ではございませんが、企業経営を研究しております立場上、経済の問題、雇用の問題の観点からまちづくりに何がしかの意見を申し上げることができればと思っております。

ここから先は私見でございますが、先ほど工藤委員から、札幌というのは第3次産業が中心になっているけれども、雇用の問題とか低賃金ということは大変問題になっているというご発言がございまして、私も似たようなことを感じております。

産業構造が高度化していきますと、やはり第3次産業にシフトしてまいります。ところが、日本全体を見ましても、札幌市という観点から見ましても、第3次産業の生産額は非常に低うございます。そういう点で、サービス業を中心とした第3次産業でどういうふうに活性化していくのか、市として、ないしは、まちづくりという観点からそれをどういうふうに生かしていけるのかということにも関心がございます。同時に、物づくり、製造業という観点からいきましても、札幌、北海道という観点から見ても弱いのですが、一部、活気のある製造業者の方もいらっしゃいます。そういうところをどういうふうにサポートしていけるか。あるいは、単にサポートするだけではなくて、どういうふうに頑張っやっていけるのかということについて、まちづくりのプランの中にそういったものが盛り込めたらいいなと思っております。

もう一点は、今回、中島委員がメモをお持ちになられて、すばらしいなと思ったのですが、わかりやすい具体的なコピーをつけようというのは私も大賛成です。実は、今回の会議に参加させていただく前に、オブザーバーとして、別の委員会に一度だけ参加させていただきました。そこでは、札幌市の経済戦略についてのご報告がありまして、すばらしい計画がたくさん盛り込まれているのですが、やはり、わかりにくい、ないしは言葉が少し平板だなと感じました。そういう意味では、わかりやすいということも市民の皆さんが共鳴できるまちづくり計画を出すときの重要なポイントなのだろうなと感じておりまして、中島委員のご提言に大変共鳴いたしました。

それから、冒頭に事務局からお話がありましたように、3年間でまちづくり計画をするということになりますと、総花的なプランではいけないのかなと感じました。何をするかということはもちろん重要ですが、この3年間で何をするか、逆に言いますと、何は次の3年間ないしは次の5年間繰り越すのかという優先順位づけが必要になってくるのではないかなということを感じました。

以上でございます。

内田座長 きょうご出席の委員の先生方に一通りご意見をいただきました。

かなり本質的な内容に入りまして、いろいろなキーワード、それから、ご自身の体験を踏まえた上での具体的な提言がなされました。どうぞ、これをベースにしながら、何度も

何度も口にさせていただきたいと思います。きょうお話ししたので、また二度目になるというふうにご遠慮なされない方がいいと思います。何度も言わないと人はなかなか理解してくれませんので、繰り返し繰り返しご自身のお考えを述べていただきたいと思います。

それでは、一通りご意見をいただきましたので、本日の意見交換はこれで終了させていただきます。

議題の(4)番目に入りますが、今後の会議の進め方について、事務局の方から説明をお願いします。

事務局(企画部長) それでは、事務局から「今後の会議の進め方について」ご説明させていただきます。

お手元に配布いたしました資料10をご覧ください。

まず、会議の開催につきましては、平日昼間の開催を基本とするものでありますが、委員の協議により、夜間に開催するなど弾力的な運用を図るものでございます。

次に、会議の進め方についてであります。施政方針「さっぽろ元気ビジョン」をもとに、事務局から検討の素案を提示させていただきたいと考えております。本市民会議におきましては、様々なアンケートやまちづくりトークなど広範な市民意見を参考としながら、市の考えと市民のニーズがあっているかの検証や必要な議論を行っていただき、最終的に提言としてとりまとめいただきたいと思いますと考えております。

次に、分科会の設置についてでございます。きめ細やかな検討、議論を行っていくため、「経済・雇用」、「共生・地域づくり」、「環境・都市機能」、「文化・人づくり」の4つの分科会を設置したいと考えております。なお、各分科会には、会長、副会長各1名を置くことといたします。

次に、他の審議会等との連携についてでございます。市役所改革や行政評価など、本市民会議に関連する他の会議がほぼ同時期に設置され、審議されることになってございます。これらとの連携を図りながら会議を進めていきたいと考えております。また、環境や少子化など個別分野におきましては、専門の審議会等でより詳細な検討を行っていくことも予定されております。したがって、個別具体的な検討は、基本的にその審議会等において行うことといたしますが、会議での検討経過や審議内容等について相互に情報交換を行うなど、必要な調整を図っていきたいと考えております。

次に、会議の公開についてであります。冒頭にも申し上げましたが、会議につきましては、「札幌市情報公開条例」に基づきまして、全体会議、分科会ともに原則公開とするものでございます。なお、開催日時は、インターネットなどで周知したいと考えております。また、会議資料、議事録につきましても、原則インターネットで公表してまいります。

次に、資料の裏をご覧くださいと思います。

会議の開催予定についてでございます。

まず、全体会議につきましては、今年度は5回、来年度は2回の開催を予定しております。分科会につきましては、今年度各4回の開催を予定しております。なお、分科会の割り

振りにつきましては、次回の全体会議において、ご提示いたしたいと考えております。

本日は、1回目の全体会議でございますが、次回の全体会議におきましては、事務局のほうから人口、経済、社会基盤、財政状況などの市政概要につきましてご説明をいたしまして、これをもとに意見交換を行っていただきたいと考えております。そのうえで、分科会の設置を予定してございます。

なお、2回目の全体会議の開催日程につきましては、11月19日(水)午前10時からの開催を予定しております。本来であれば本日の会議においてご審議いただくべきところでございますが、準備の都合上あらかじめ事務局において設定させていただきましたので、ご了承くださいませようお願いいたします。

各分科会におきましては、2か月半程度をかけて基本目標や重点戦略課題ごとに検討を行っていただき、3回目の全体会議では各分科会からご報告をお願いしたいと考えております。

そして、分科会報告をもとにいたしまして、提言書案のとりまとめ、意見交換を経まして、年度内には提言書を市長に手交していただきたいと考えております。

私どもでは、いただいた提言を踏まえまして、ビジョン編を策定するとともに、重点事業編の策定に着手いたします。6月頃には素案として公表し、広く市民の意見を聴く機会を設ける予定でございます。本市民会議には、全体会議におきまして、素案のご説明をし、ご意見を頂戴したいと考えてございます。

8月頃には、市民意見を踏まえ、重点事業編を公表する予定でございます。本市民会議には、市民意見の反映状況などにつきましてご報告をさせていただきたいと考えております。

以上で、説明を終わらせていただきます。

内田座長 ただいま説明のありました運営方法、今後のスケジュールについて、何かご質問はございますか。

中島委員 僕は、分科会の途中で全体会議が一度あった方がいいと思います。

これを考えると、独立した形では絶対成立しないということは明らかです。ですから、分科会のところで、専門的な部分ばかり入ってしまうと、そこだけの感覚になってしまいます。ですから、途中で一遍それを戻さないと全体のバランスがうまくいかないと思います。全体会議は最終的な報告のまとめだけというのは、流れとしてはまずいのではないかと思います。

内田座長 基本的にはそういう形の方がいいと思います。全体会議の意見が分科会に反映されないということが危惧されますし、全体会議は単にオーソライズするところではないと思います。先ほども、自分の専門はこうだけれども、こういうことについても話したいということを多くの委員がおっしゃっていましたので、その点については事務局の方で改善していただきたいと思います。分科会でかなりきちっと決めないと、このスケジュールでは行かないという不安を持っておられると思いますが、これは新しいタイプの市民会

議だということであれば、最低、そのところくらいはやっていただきたいと思います。

それから、分科会には必ずどなたも所属しますが、見ておわかりのように、分科会は非常にタイトなスケジュールです。ゆっくり考えていけばいいというものではないので、事務局も大変ですが、皆さん方の方も常にお考えをめぐらせて、いい意見が出るように積極的にご参加していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

ほかにございますか。

どうぞ。

林委員 分科会の進め方についてですが、次回の全体会議でメンバーを割り振るということですが、そこに参加する事務局、市の関係の方とかコンサルタントの方の構成をお聞かせいただきたいと思います。

事務局（調整課長） 委員の方々の会議でございますので、事務局は後の方に控えさせていただきます。

それから、今日は、市からは企画調整局企画部のみが出ておりますが、分科会につきましては、専門の部署の職員も事務局として参加させていただきたいと思います。

林委員 事務局にお願いしたいことがありますので、メモを配りたいと思います。

とりあえず、2点要望がありますけれども、両方とも情報に関することです。

一つ目は、資料10についてですが、各分野で議論するときに、今の市の財政状況をかなり正確につかまえておく必要があると思っています。財政状況の概要は次回ご説明いただけるようですが、ここについては、さらっとではなく、かなり突っ込んだ資料を提供していただきたいという要望です。

現況はもちろんですが、少し長期的な将来像、市民の負担なども含めて、今のまま行くとそれがどうなると予想されるのかということまで突っ込んだ資料 余り詳しく過ぎるのもあれですが、わかりやすく、要点を押さえた、非常に内容の深い資料を提供していただきたいというのが1点目です。

2点目は、主に分科会の話になりますが、議論の途中でいろいろ知りたいことが出てくると思うのです。そういう場合に、札幌市の行政に関する情報について、なるべく迅速に調査していただいて、取りまとめて、報告していただく体制をとっていただきたいと思います。即答していただけるとは限らないので、次回までに調べて報告していただくという体制をとっていただきたいと思います。

以上です。

内田座長 これはほとんど問題ないと思います。

事務局（調整課長） これは、次回の第2回目の会議で札幌市の財政状況をお示ししたいと思います。

それから、将来の見通しでございますが、つい先だって、財政の中期見通しもつくっておりますので、そういうものも資料としてご提供申し上げたいと思います。

2点目の市役所職員の参加については、我々も分科会のテーマに沿った形で、庁内でプ

プロジェクトチームを組ませていただいておりますので、その主要メンバーも会議に参加して、いろいろなご質問等に迅速に答えられるようにしてまいりたいと考えています。

内田座長 逆に、我々が余りにもコンクリートな情報を得ると、そのことにこだわってしまうという非常に難しい面もあります。つまり、市側が言う情報に、そうではないと思いつながらぬ染まっていくというのは一番危険ですから、そこは十分気をつけなければいけません。

ただ、今、林委員がおっしゃったことは、十分やっていけると思いますし、やっていただけると考えております。

ほかにございますか。

どうぞ。

柴川委員 中島委員がメモを書いてくださいますので、その終わりの方に、「あらかじめ参加者が簡単なメモを持ち寄る方が合理的だと思います」と書かれています。それをどのように取り上げるのでしょうか。今すぐ、今度はこうしようということにはなりませんか。

内田座長 私の個人的な意見ですが、次の全体会議は、市のかなり詳しい情報提供と、分科会設置ということになると思います。その後、先ほど言いましたように、全体会議が中に入る形でやってもらうようにしますが、分科会のときにやった方が具体的な形で議論が進むと思います。ここで全体的に取り扱うよりは、もう少し時間を経て、その中でやる方がいいと思います。

ちょっときつい発言ですが、全員で持ち寄ったときに、全員の自己満足で終わってしまう可能性があります。全体会議では、ほかの人の意見も聞きながら自分の考え方が修正されていくプロセスの中で一つになったものが出てくる方が望ましいと私は思います。ただ、分科会ではそういうことは可能だと思いますので、分科会ごとにそういうことをやるかやらないかをお決めいただきたいと考えております。

少なくとも、今ご質問があって即答したので、いいのかわかりませんが、私はそういうふうを考えています。そういう形でのよろしいでしょうか。

どうぞ。

高田副座長 情報開示ということで、財政とかいろいろなことを伺うことになると思いますが、守秘義務というものもあるのではないかと思います。その辺はどのように踏まえればいいのでしょうか。

内田座長 今のお話で難しいのは、この議論はすべて公開なのです。ですから、何をもちって守秘義務とするか。ここで発言したものや、ここで出た資料は、実は、我々だけのものではなくて、全市民のものになるというのがこの会議の趣旨です。ですから、守秘義務という今のご発言の趣旨がちょっとわかりづらいです。

高田副座長 インターネットで公開ということになると思いますし、また新聞等でもあろうかと思いますが、それなりの守秘義務があるような気がするのです。それは、皆さん

の常識で踏まえていけばいいのだらうと思います。

内田座長 ニュアンス的にはよくわかりますが、これは全面公開なのです。したがって、ここで出た情報、発言はすべて市民に公開されます。その意味では、ご自身の発言に責任を持つということにもなります。そういうことを自覚していただきたいと思います。

高田副座長 感触でおわかりいただければ、それで結構です。

内田座長 ほかにございますか。

どうぞ。

工藤委員 質問です。

先ほど、この会議の進め方の説明をいただいたのですが、さっぽろまちづくりトークとか、市民有識者アンケートとか、タウントークとか、広範な市民の意見を私たちも受けた上で、いいものをつくらなければいけないと思っているのですが、タウントークなども資料も、今日は、アンケートについての資料はありますが、それは事務局の方で用意していただけるのかということが一つです。

それから、市役所改革市民会議と、市民参加型行政評価の委員会、この連携というのは、資料をいただくという形の連携になるのでしょうか。

それから、これは私の意見ですが、先ほどからのお話のように、集まって会議で話し合うときに初めて資料を見るのでは時間のロスがありますので、アンケート調査の結果とか、タウントークの資料などは事前にいただきたいと思います。

以上です。

事務局（調整課長） 3点ほどご質問がありました。

タウントークの資料につきましては、今、取りまとめている最中ですが、ご提供申し上げる予定であります。

それから、市役所会議等の他の会議との連携ということでございますが、ほかの会議でどのような議論がなされたか、それから、どのようなお話の流れになっているのかということ、可能な限り、これも資料になると思いますが、ご提供させていただきたいと思います。

それから、資料を事前にということで、まことにそのとおりでございますが、第2回目以降の会議におきましては、なるべく事前に委員の皆様の手元に届くように配慮したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

内田座長 そういう方向で、できるだけ努力してやっていきたいというご趣旨だと思います。

ただ、お役所なので、資料をつくったときに、言葉などが後で非常に問題になる場合があります。ですから、公式なときは、もう一度チェックして、早くするときには、もう粗々はできているという作業がどうしてもありますので、なかなか難しいところはあると思いますが、できるだけ迅速にやっていただきたいと思います。

皆さん方が非常に積極的な形で参加しておられますので、その点はよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかにござひますか。

木路委員 会議の招集の仕方ですが、これは常に市側から提示されるものなのでしょう。あるいは、座長が会議を招集するのでしょうか。

というのは、1カ月に1回や2回ではとても間に合わないという事態も出てくるのではないかと想像されるのですが、その辺はどういう形で進めるおつもりですか。

事務局（調整課長） 基本的には、市の方で事務局を務めさせていただきますので、市の方からスケジュール等を調整させていただきたいと考えております。まさに、分科会におきましては、その分科会のいろいろな議論の経過の中で弾力的に取り扱う必要があると思ひますので、そういった形も考えられるかなと思ひております。

内田座長 分科会は、メンバーが小人数で固定されますので、必要に応じて、市側にそういう形でお話しになれば、それは可能になると思ひます。今、「弾力的に」とおっしゃいましたが、日程的にもみんなが出られる形でやっていくことになると思ひます。

ただ、全体会議に関しては、やはり少し難しいかと思ひます。

ほかにござひますか。

中島委員 その分科会は次回に決めるわけですね。分科会のメンバーは指名になっているのですか。

内田座長 割り振りは希望ではないと思ひます。

中島委員 わかりました。

内田座長 次回にお話ししてもいいのですが、分科会だからそのメンバーしかだめだということではなくて、分科会の日程は全委員に知らせるという形をとります。つまり、分科会は分科会のメンバーだけに知らせるのではなくて、この分科会がありますと全員に知らせることによって、その分科会に興味があれば出席していただくという形をとって構わないと思ひますし、私はそうしていただきたいと思ひております。

中島委員 それはいいですね。

内田座長 ただ、この日程ですと、自分の分科会に出るだけでも大変だと思ひますが、それこそバリアフリーというか、分科会は分科会のメンバーだけだという形ではなくて、もともとこれはオープンな会議ですから、オープンな会議の中の小さい会議をオープンにしないというのはおかしいです。ですから、そうさせていただきたいと思ひていますが、これは私の意見です。事務局は別なご意見があるかもしれません。

事務局（調整課長） 私どももそういうふうと考えております。

内田座長 ほかにござひますか。

燕委員 分科会のメンバーは決まっているのですか。

内田座長 大体、その分野の人という形で……。

燕委員 今日は発表できない何かがあるのですか。

内田座長 それは知りません。

燕委員 私はゆっくり考えたいものですから、自分がどの分科会かということが今日わかった方がうれしいのですが……。

内田座長 心構えとして持っておきたいという積極的なご意見です。正式には次回という形で構わないと思いますが、今、口頭でお知らせ願えればと思います。

事務局（調整課長） 要綱によりますと、座長が指名するということになっておりますが、今、予定ということでお示ししたいと思います。

まず、経済・雇用の分野では、荒委員、内田委員、工藤委員、高田委員、田村委員、平本委員の6名でございます。

それから、共生・地域づくりは、伊藤委員、岩田委員、黒田委員、柴川委員、杉岡委員、燕委員でございます。

それから、環境・都市機能は、大坂委員、太田委員、小林委員、中井委員、中島委員、林委員でございます。

それから、文化・人づくりは、阿部委員、飯塚委員、臼井委員、大沼委員、木路委員、杉森委員でございます。

内田座長 とりあえず、きょうは自分のところだけ確認していただいて、次回、正式に決めるという形をとらせていただきたいと思います。

自分のところがわからなかった人は、もう一度お尋ねください。

大坂委員 自分のところはわかったのですが、メンバーがわかりませんでした。

事務局（企画部長） 環境・都市機能は、太田委員、小林委員、中井委員、中島委員、林委員でございます。

中島委員 これは、変更希望はきかないのですか。

一応、僕は芸術文化のつもりで参加しようと思っていたのですが、変更がきくのであれば、ご検討をいただければと思います。

内田座長 次回が正式決定だにご理解ください。きょうは、前もって案をご紹介したということです。

そういうことを言ったら、私も変わりたいという気持ちがあるので……。

ほかにございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

内田座長 今日は非常に活発なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

今、事務局からありましたように、今回は2週間後の19日になります。

先ほども言いましたように、非常にタイトな日程で、これから年末年始の間でかなりの回数開催しますので、日程調整はきちっとやらさせていただきます。先ほども言いましたように、すぐにいろいろな形で意見を反映できるように、常日ごろからお考えを取りまとめておいていただきたいと思います。よろしく願います。

5 . 閉 会

内田座長 今日は、長時間にわたりました、どうもありがとうございました。

以 上